スタンフォード大学研修の成果

熊本大学医学部附属病院 中口 裕二

平成25年度の海外研修生としてスタンフォード大学に派遣されましたので，その内容と成果を報告します．

この研修の目的は3つあり，それぞれの内容と成果を報告する．最初の目的は最先端の研究，臨床の状況を把握することであった．最新のMRI/PET，CT/PET，7T MRIの開発研究の状況を見学，体験し，分子イメージングなどの最先端医療の臨床前研究を研修した．研究内容，規模もさることながら，「battle」という言葉を常に研修の中で用い，有用な研究であれば，必ず他の施設でも行っていることを意識し，競争意識を持って早く確実に行うことが大切であることを強調されていた．

次の目的が米国と日本の診療放射線技師の違いを確認することであった．米国ではモダリティ別に資格が分かれているのに対し，日本は多くのモダリティを担当できることであった．米国の医師との懇談では，日本の技師の優秀さを強調する反面，業務以外の個人の時間が犠牲になっているのではとの指摘があった．

最後の目的が海外での研修を通じ，日本の診療放射線技師の国際的視野を考察することであった．イブニングセミナーで多くの仲間と議論を行った．各分野で肯定意見，否定意見が示された．本邦の医療状況からも更なる国際化を行って行かなければならない状況にあることは間違いなく，ネガティブな意見も尊重しながら，最も有益な国際化の道を見つけることが大切であることを確認した．

今回得た経験はこのレポートだけでは言い表せない．余りにも多くの経験を得たため現在，整理中である．本邦と米国のシステムの違いによる差は感じながら，研究に対する方法論等については非常に参考になり，今後の研究，臨床業務にどのように生かすか考察中である．ただ，今回の研修が非常に貴重な経験になり，他に類をみない経験であることは間違いない．今後もこの研修が続き，多くの方が研修を受けられることを望む．

最後に，この研修にご尽力頂いたモズレイ先生を始めとするスタンフォード大学の皆様，日本放射線技術学会，GEHC-J，関係会社の多くの皆様に心から感謝申し上げます．また，1週間の留守をカバーして頂いた職場の皆様にも感謝申し上げます．

Varian工場見学にて